広報のあさひ

No.389
'89
4/15

平成元年度

●施政方針

「朝日自然観」の経営確立に全力

朝日町長

小林富蔵

平成元年度の新しい町づくりの方針や予算が、三月八日から開かれた三月定例町議会で議決され、いよいよスタート。家族旅行村「朝日自然観」も、十月五日オープンめざし新布陣で出発しています。

今月は、町政執行へ新たな決意でのぞむ小林町長の施設方針と、新年度予算の概要を中心にご紹介します。

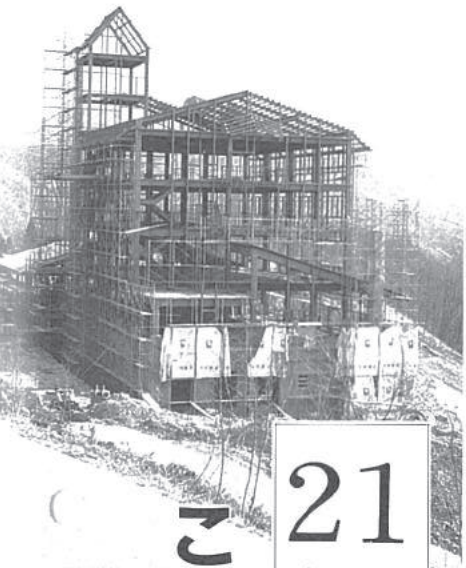
平成元年度の予算議会にあたり、町政執行の基本的な方針について申し上げ、町民皆様のご協力をお願い申し上げます。

まずはじめに、諸般の情勢についてでありますが、改めて申し上げるまでもなく、経済摩擦等による貿易自由化などの外圧も依然として厳しいものがあり、国内にあってはリクルート疑惑による政局不安が高まるなど、大きな変動も心配される昨今であります。

さらには、消費税導入に伴う町民生活および町財政に与える影響や、異常気象による農作物への影響がどうなるのか、不透明で心配な要素を抱えている現状にあります。

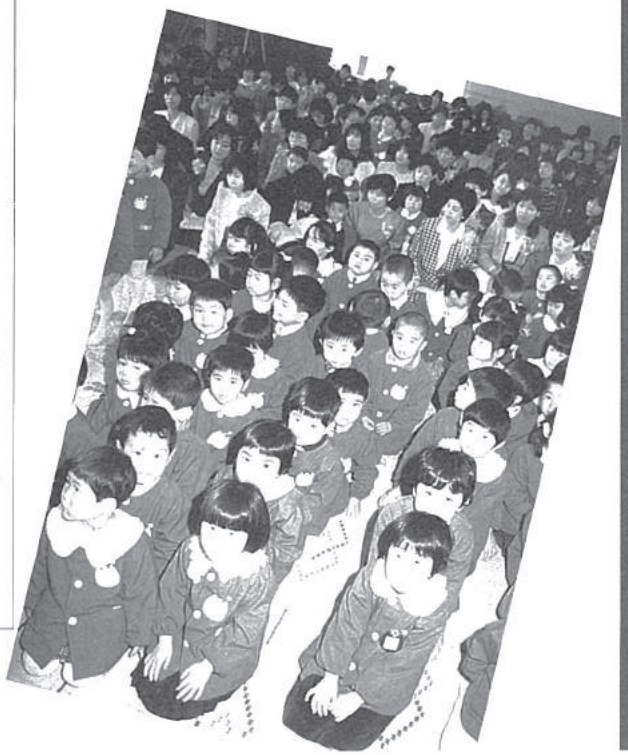
こうした諸情勢をふまえながら、次の諸点を町政執行の方針として掲げ取り組んでまいる所存であります。

まず第一には、今年十月五日オープン予定の家族旅行村〝朝日自然観〟の整備と、その経営組織の確立であります。元年度は残事業の推進と合わせて、アクセス道路の改良促進、自然観の経営を支援するための第三セクターの設置等を進めてまいります。



21世紀へ新たな飛躍を

こころ豊かな〝ふるさと〟めざして



産業基盤の拡大をめざす

第二には、産業の振興であります。低迷する農業の確立を図るため、昨年より「農業振興対策研究委員会」を設置し、町農業の指針となる処方箋づくりをお願いしているところでありますが、今年度中にその答申が出される予定であり、それに基づいた新たな町農業の在り方を明確にしてまいりたい所存であります。

さらに、働く場の拡大を図るため、株式会社サンライズの工場拡張への援助、西原地内に株式会社朝日電装の工場誘致の促進、アイジー工業株式会社の工業用地取得および造成等の推進を図る考えであります。

第三には、道路網の整備など生活環境の整備促進であります。国・県道の整備促進はもちろん、町道、農林道等についても、継続事業を中心として極力整備の促進を図る考えであります。

とくに今年度は、これまでご検討をいただいた下水道問題の結論を受け、今後の整備計画を明確にするとともに、事業に着手してまいりたい所存であります。

生涯学習のまちづくり

第四には、人づくりのための教育行政でありますが、立木小学校の改築に向けて用地の取得をすすめるほか、生涯学習課の設置を行うとともに「生涯学習の町」の指定をめざし、生涯教育の推進を図る考えであります。

第五には、福祉の充実でありますが、継続的な施策のほかに、高齢化社会への対応として寝たきり老人の短期保護、貸し出しベットの購入、「福祉隣組」モデル地区の指定、「愛のひと声運動」など高齢者福祉の充実を図り、心豊かなまちづくりをめざします。

基本構想の見直しに着手

さらには全体的な課題といたしまして、町の基本構想、基本計画の見直しであります。昭和五十九年に第一次見直しを行ったところでありますが、社会情勢の変化は予想以上のものがあり、計画内容を全面的に見直しする必要が生じております。これにつきましては、元年度において資料の収集及び調査等を行うとともにふるさと創生を含めた町民各層の意見を聴取し、平成二年度内には二十一世紀に向けての新たな基本構想、基本計画を策定したい考えであります。

以上、元年度において進めようとする施策の主なるものについて申し上げましたが、これらを推進するにあたりまして、何といっても財源の確保が課題であります。過疎債の増額確保、各事業における補助、起債の確保等につきましても、前年度以上に努力してまいる考えでありますが、町民の皆様におかれましても、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●今年の主な投資的事業

事業費総額
15億8,700万円

■農林水産業費	6億4,340万円
●農村基盤総合整備事業	2億2,607万円
●新農業構造改善事業	1億921万円
●農村総合整備モデル事業	9,408万円
●団体営農地防災整備事業	2,023万円
●団体営農道整備事業	1,214万円
●農業生産体質強化対策事業	997万円
●県営焼野開拓地整備事業	500万円
●作業道白倉線開設事業	4,750万円
●森林総合利用促進事業	4,500万円
●森林総合整備事業	2,598万円
●林道一ツ沢線開設事業	2,340万円
● 〃 小清石須部線整備事業	529万円
■観光施設費	4億792万円
●家族旅行村宿泊棟建設事業	2億521万円
●朝日山麓観光レクリエーション地区整備事業	1億9,331万円
●旅行村推進事業	940万円
■道路橋梁費等	3億3,314万円
●道路整備事業	1億9,728万円
●ふるさとづくり特別対策事業	1億17万円
●除雪機購入事業	1,500万円
●都市街路整備事業	4,716万円
●緑ケ丘公園 〃	4,410万円
■消防施設費	2,453万円
■教育費	6,073万円
●立木小敷地造成事業	2,396万円
●能中公民館建設事業	2,120万円

平成元年度 ●一般会計予算

町民1人当たり（÷ 10,872人）
379,047円

41億2,100万円

歳出

	前年度	（構成比）	
農林水産費	7億9,872万円	19.4%	
商工費	5億7,870	14.0	
公債費	5億7,037	13.3	
土木費	4億9,945	12.1	
教育費	4億3,002	10.4	
総務費	4億2,785	10.4	
民生費	2億9,959	7.3	
衛生費	2億2,610	5.5	
消防費	1億7,080	4.1	
議会費ほか	1億1,940	2.9	

歳入

	（構成比）		
地方交付税	46.5%	19億1,700万円	
町債	17.9	7億3,680	
県支出金	11.8	4億8,816	
町税	11.0	4億8,654	
国庫支出金	4.1	1億6,753	
その他の収入	7.9	3億2,497	

町税 内訳

		（構成比）
固定資産税	2億4,416万円	50.2%
町民税	1億7,257	35.5
たばこ税	3,230	7.3
軽自動車税	1,320	2.7
その他	2,431	5.0

［性質別内訳］

		（構成比）	（伸び率）
消費的経費	18億 627万円	43.8%	7.3%
うち人件費	9億8,404	23.9	3.8
うち物件費	4億1,298	10.0	18.1
うち補助費等	3億3,017	8.0	4.9
投資的経費	15億8,708	38.5	6.0
うち普通建設事業費	15億7,911	38.3	6.1
公債費その他	7億2,765	17.7	7.0

［当初予算の推移］

		（伸び率）
元	41億2,100万円	6.7%
63	38億6,100	23.3
62	31億3,100	△ 1.7
61	31億8,500	9.6
60	29億 700	2.4

総額 14億4,385万円

「朝日自然観」事業	路線バス事業 1,672	集落排水事業 1,153
売上収入 7,470	使用料 700	使用料 990
	一般会計繰入金 741	一般会計繰入金 161
需用費 2,170		
原材料費 3,375		

●企業会計 総額 6億2,603万円

病院事業		水道事業	
収益的 4億6,864	資本的 1,476	収益的 1億 136	資本的 4,127
医業収益 4億1,693	一般会計出資金 1,476	営業収益 9,340	企業債 3,500
一般会計負担金 4,526		一般会計負担金 515	

（単位：万円）

●特別会計歳入予算（歳入の主なもの）

国民健康保険	老人保健	朝日山麓家族旅行村
7億 629	5億5,280	1億5,651
保険税 3億2,263	支払基金交付金3億8,627	使用料 8,130
国庫支出金 2億9,276	国庫・県支出金1億3,729	（歳出の主なもの）
一般会計繰入金 1,596	一般会計繰入金 2,744	一般職員費（給与等）1,56
		臨時職員賃金 5,87

清野産業課長を収入役に選任

商工観光課、生涯学習課を新設し事務推進体制を強化

4月1日の町職員人事

三月八日から開かれた町議会三月定例会で、任期満了となる助役、収入役の選任議案が審議され、熊坂正一助役が再任、勇退される若月清蔵収入役の後任として、清野隆産業課長が新たに選任されました。

また、役場の機構改革案についても上提され、家族旅行村開村を十月に控えてその事務運営を明確化するため、同村対策室を家族旅行村「朝日自然観」という名称に改め、町の出先機関の一つとして現地の白倉に置くことを決定。さらに、商工業や観光、生涯学習の推進体制を強化するため、これまでの係制から新たに課を設置。合わせて産業課を農林課、企画課を企画情報課に改めるなど、新たな時代に対応した町政事務機構の改革がなされました。

なお、これまで検討を重ねてきた各出張所の在り方については、地域づくりや学習活動の身近な拠点施設としての機能を優先させるため、出張所の機能、名称を廃止し、西部、北部公民館としての位置づけを明確化しました。

これらの機構改革を受けて四月一日、調理師三人の新規採用をはじめとする職員の人事異動が行われ、次のとおり各担当職員の配置替えが行われました。

●退職（3月31日付）
▽清野　隆（産業課長）
▽青山一郎（病院内科医長）
▽鈴木克美（税務課町民税係長）
長い間、ご苦労様でした。

●新採（4月1日付）
家族旅行村「朝日自然観」
レストラン課　調理師
▽松田篤子（33歳・長沼）
▽結城宏幸（27歳・立木）
▽佐竹　満（26歳・松程）

●異動（4月1日付）
【本庁】総務課▽文書係長（庶務係長兼務）▽同係　田中和子（議会庶務係）**企画情報課**▽課長　阿部晃士（教育課長）▽電算係　阿部正文（庶務係）**商工観光課**▽課長　海野正基（西部出張所長）**建設課**▽維持管理係　花山　護（社会教育係）**農林課**▽課長　長岡捷治郎（企画課長）▽事業係長　富樫清志（農政係）▽**出納室**▽出納係長　阿部政彦（文書係長）**税務課**▽町民税係長　堀　幸雄（電算係）▽同係　阿部則雄（固定資産税係）▽固定資産税係　白田久寿（商工観光係）**住民課**▽住民係長（課長兼務）▽同係　鈴木昭男（社会福祉協議会）▽年金係長神尾良裕（水道工務係長）▽消防防災係長　熊谷貞則（維持管理係）**【出先機関】保育園**（保母）▽さゆり　高沢きく子（ふたば）・白田清子（わかば）▽わかば　海野優恵子（さゆり）・宮本千代子（ふたば）▽ふたば　安藤照代（わかば）・阿部幸子（さゆり）**水道事業所**▽工務係長　鈴木　清（同係）**家族旅行村「朝日自然観」**▽支配人　白井淑

公務員としての宣誓を行う３人の新採職員

退任のあいさつ

前収入役　若月　清蔵

昭和23年、旧西五百川村役場に奉職。その後、朝日町役場税務課長、総務課長等を歴任。52年４月、収入役に就任。（60歳・西町）

今年は町にとって「活性化元年」とも言える大切な年。この度の任期満了にあたり新進気鋭な方に町の発展のために活躍を願うべきと決断し、退任を決意しました。

収入役としての３期12年の間、町財政の健全化に努め、重責を果たすことができ得たと思っております。これも一重に、皆様のご指導ご鞭撻の賜物と、心から感謝申し上げます。

今後は一町民として、町発展のため寄与できればと思っております。皆様のなお一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新任のあいさつ

収入役　清野　隆

昭和32年、朝日町役場に奉職。学校教育係長、農政係長を経て50年10月、産業課長に就任。趣味：囲碁。（55歳・四の沢）

このたび収入役として、町の要職に選任され、心新たにしているところであります。

この重責を担うにあたり、初心にかえって身を引き締め、清廉にして実直な前任者を手本としながら、「調子」と言う乗物に乗らず、「有頂天」と言う山に登ることなく、是々非々をよくわきまえながら、本町発展のため、誠心誠意、努力する覚悟であります。

今後とも陰陽にかかわらず、これまで以上の皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

現地 白井淑浩支配人のもと 白倉に事務所開設

家族旅行村 朝日自然観

仮事務所となった農産物加工施設

町の職員人事でもお知らせしたとおり、これまで役場内に設けられていた家族旅行村対策室から、家族旅行村「朝日自然親」という施設名に改められ、その実際的運営にあたる白井淑浩支配人をはじめとするスタッフ十二人も、意欲を新たにしながら、今、ホテルの建設が急ピッチで進められている現地、白倉に移動。ホテル前の駐車場そばに建設された農産物加工施設内に事務所を構え、十月オープンに向けた施設の整備と具体的な運営の準備に入りました。事務所の電話番号は**六七ー七一一一**。

なお、先月号のお知らせ欄で、旅行村で働く従業員などの臨時職員を募集しましたが、これら職員の配置も含め、十月オープンに向けた今後の取り組みなど、くわしい内容については本紙六月号に特集してお知らせします。

ひとり暮らし老人に "愛のベル"プレゼント

緊急時はブザーで通報

取り付けられた愛のベル

町内でひとり暮らしの老人世帯は、五十二世帯。県内で高齢化率が一番高いわが町にとって、高齢者の福祉、とりわけひとり暮らしをされているお年寄りの緊急時対策が大きな課題。

そこで、区長さんをはじめ民生委員や婦人会を中心に進めている「福祉隣組ネットワークづくり」の一環として、ご近所の温かな協力により、火災や病気の発生などをいち早く近くの人にブザーで知らせることができる「愛のベル」を、今回十五世帯に設置。ひとり暮らしのお年寄りの方から、大変喜ばれています。

浩（対策室長）▽営業部長　菅井　博（住民係長）▽業務部長　菅井和広（対策室計画係長）▽施設部長　阿部洋一（同開発係長）▽施設課長　清野直治（同係）▽宿泊課長　川口幸男（同計画係）▽スキー場課長　佐藤敏行（同計画係）▽宿泊課　畑　英俊（同係）・阿部早百合（同係）【**社会福祉協議会**】▽事務局長　石黒藤次郎（消防防災係長）【**県へ派遣**】総務部地方課財政係　鈴木康宏（企画広報係）【**議会事務局**】▽庶務係　阿部富子（学校教育係）【**教育委員会**】**管理課**▽課長　原　喜内（北部出張所長）**生涯学習課**▽課長　渋谷一俊（出納係長）西部公民館▽館長　斎藤宇八（町民税係長）北部公民館▽館長　阿部勝男（事業係長）

はばたけ！山村留学生

たくましい姿で“お別れ”

児童会でのお別れ会では一年の思い出を発表

「きっとまた来るね」「こんどは夏休みに」「田植えも楽しかったな」「何といってもスキーが一番！」それぞれの胸に熱い想いを抱いて、さる三月二十日のお別れ会を最後に四名の留学生が巣立っていきました。立木小学校での一年間の貴重な留学体験は、雪焼けしたたくましい顔とキラリと輝く澄んだ瞳の中に凝縮され、同時に数々の大きな足あとも残してくれました。

青山美露久さん（留学時四年・川越市）、尾崎太啓くん（五年・佐倉市）、大山奈歩さん（五年・横浜市）、島崎桜子さん（五年・海老名市）の四名の留学生は、一級づつ進級して大勢の友達が待つ元の小学校へ。立木小の仲間たちもひと回りもふた回りも大きくなって、新学期を迎えています。

一年間親元を離れてすごした留学生を、親がわりとなってあたたかく励まし、しっかりと見守ってきた里親の皆さんは、曲渕の大井忠夫さん（太啓くん）、立木の阿部正二さん（奈歩さん）、古川征一さん（桜子さん）、阿部良一さん（美露久さん）と各家族の方々。大きな事故や病気もなく、ホ

ポート

町職員の海外研修 その1

羊の国を行く

●主事　川口幸男

昭和六十年度からスタートした町職員の海外研修派遣制度。今回、前家族旅行村対策室の川口幸男主事が、去る二月六日から十二日間の日程で、日本農業新聞が主催するオセアニア州二か国の農業研修視察団に参加しましたので、今月号と来月号に分けてその報告をします。

農業は、国内的には農産物の生産調整と水田再編問題、そして対外的には農産物の自由化問題など課題が山積みしている。この重要な時期に、農業立国といわれるニュージーランドとオーストラリアの農業を、目のあたりに見る機会に恵まれたことは非常に貴重な体験であった。

限りない可能性の国《ニュージーランド》

ニュージーランドは、イギリス人が入植してからまだ二百年もならない歴史の新しい国である。人口わずか三百三十万人、面積は日本の四分の三ほど。寒暑の差が少なく非常に暮らしやすい気候風土で、日本に良く似た国である。

ニュージーランドの第一印象は、とにかく国が美しいことである。国土全体が緑のじゅうたんで覆われ、牧草地は山の頂上まで続き、芝生と草地の区別がつかないほどである。果てしなく続く草地に羊が群れ遊ぶ風景は、不思議と心を落ち着かせるものがある。

ニュージーランドの農業は、国土の半分以上を牧草地が占め、牧畜については非常に生産性が高く、経営規模も平均二八〇㌶と日本では想像もつかない。主要な農作物は食肉、酪農品、穀物等であり、特に羊は国民一人当たり二十一頭も飼育されている。

農業は完全な輸出型産業で、農産物の八〇％が輸出され、国際競争力は極めて高い。人口が三百三十万人足らずと国内市場が小さいため、食肉、酪農品、高級果実など所得弾力性の高いものを輸出に向けている。単なる生存のための食糧供給産業ではない、という自信をもって農業経営が行われている。

●生産性の高い酪農

今回は一般農家を訪問する機会に恵まれたが、特に酪農家では、経営規模と効率的な経営に驚かされた。一一二㌶の草地に搾乳牛三百十頭、小牛百頭を放牧し、

ームシックをのりこえて一年間をすごすことができたのも、家族同然に接してきた里親の方々や、陰に陽に励まし続けた先生方など地域あげての協力のたまものといえます。

留学生にとっては、田植えや稲刈り、りんごの収穫、大朝日岳への登山、朝日川での川遊び、水泳、スキーといった朝日町ならではの体験学習を通して、生涯思い出に残る〝財産〟をつくりあげることができたものと思われます。

なお、新年度は立木小の改築事業をひかえていることから新たな募集は行わず、研究期間としてさらに充実した体制づくりをめざすことにしています。

本演習は4月30日、操法審査会は5月14日に実施

消防団部長以上幹部会

頼もしいハッピ姿が集った会議風景

春は特に火災の発生しやすい時季。四月に入り、町内でも焚火の延焼による林野火災がすでに一件発生しています。そこで春の火災予防運動を前に四月七日、消防団部長以上幹部会議が役場で開かれました。

席上、鈴木與一郎前団長の勇退により新団長に就任した渡辺金二団長は、「町消防団の伝統を引き継ぎ、町民の期待に応えるよう重責を担っていきたい」と抱負を述べ、団幹部や十七名の部長に消防施設の総点検と予防査察の徹底を指示。会議では春期演習や操法審査会など、元年度の事業計画や消防施設の整備計画について話し合われました。

わずか二人の労力で行っている。濃厚飼料で育った牛に比べて、見るからに健康そうであった。乳量は日本に比べ劣るが、乳脂肪率は六%で倍近い。

さらに驚くべきことは、パーラー式搾乳機とよばれるもので、三百十頭の牛の搾乳がたった一人で、わずか一時間十分で終了するという効率の良さである。その酪農家の実質的な経営者は二十三歳の青年であったが、農業を他の職業と同じように完全にビジネスとして割り切った考えをもっていた。

●無肥料でりんご栽培

果樹地帯に移り、二軒のりんご栽培農家を訪問したが、経営規模は一軒で二〇㌶前後と広大で、個人で選果場まで設備投資をしている。訪問した二月は、ちょうど早生種の収穫最盛期であったが、若い労働者が楽しそうに働いていた。

驚くべきことは土壌が非常に肥えており、無肥料で一〇㌃あたり一〇㌧以上の収穫をあげていることである。台木はすべて矮性台木であった。

ただ、品質的には小粒で着色も均一でなく、収穫作業も雑なため、芸術品といわれる日本のりんごに比べると、外観では足元にも及ばないが、ひと皮むけば日本の消費者は区別ができないであろう。日本の消費者嗜好が研究され、今の生産ベースで日本向けりんごが作られたら、脅威になるであろう。

●農業は最高の職業

今回、ニュージーランドの農家、そして研究機関等を視察して一様に感じたことは、農民の社会的地位の高さである。農家が、農産物輸出により国民経済を支えているという自覚をもっているからであろう。当然、日本のように、農家の嫁不足などはないし、農業を始めようとする若者が非常に多い。

ニュージーランドでは現在、日本市場の開拓に必死になっている。イギリスのECの加盟により、近い東南アジア、特に日本の市場拡大に力を入れたのである。研究機関でも農家でも、農業経営の目的として行き着くところは、外国人の嗜好にあった輸出向け農作物の生産である。農業経営者は常に世界に目を向けて農業の将来を考えている。まさに日本農業が見習うべきことである。

このように、ニュージーランドは限りない可能性を秘めた国であり、農作物を輸入して工業製品を輸出している日本とは、今後、ますます経済的交流は深まるであろう。

（次号はオーストラリア編です。）

日本では見られない棚仕立てのりんご栽培

りりしい5人の若武者、いざ出陣!!

ク準優勝飾る

VS 大谷剣道スポーツ少年団

三月二十六日に茨城県水戸市で開かれた第三十回全国選抜少年団剣道錬成大会に、今年も連続出場十一回を誇る大谷剣道スポーツ少年団が出場。同大会には全国から三百六十の少年団が参加。全国一をめざし、十二のブロックに分かれて試合が進められました。

出場した大谷少年団の五人のメンバーは、伝統ある〝大谷の剣道〟を存分に発揮して四回戦を連勝。初のブロック決勝戦に進出しました。相手は強豪、愛知県の「愛知近藤道場」。激しい試合展開の末、二対二、一引き分けの互角ながらも、得本数二本差で惜しくも念

会場となった水戸市の県立武道館

囲んで作戦会議

敵を知るところからもう試合ははじまる

おおぜいの仲間と出会いの時

戦いがすんで、さわやかな笑顔にもどった
選手に敢闘賞が授与された

少差で惜しくも無念の涙をのむ

剣道少年たちの"甲子園"

水戸大会

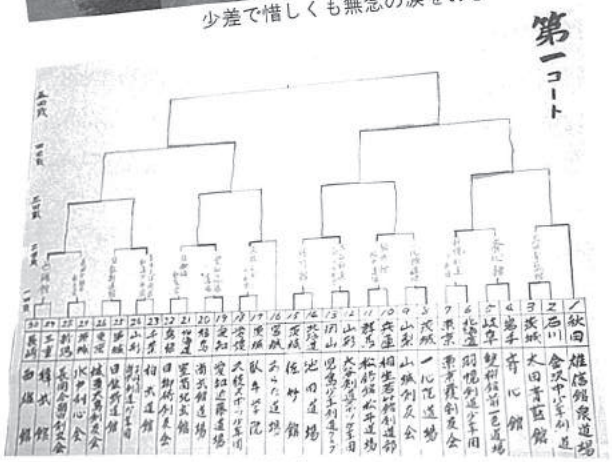
初のブロック

第30回全国選抜少年団剣道錬成大会

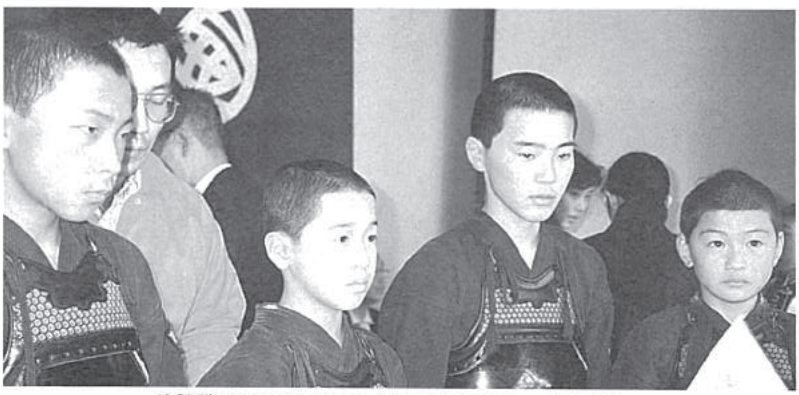
願のブロック優勝ならず。

しかし、同少年団にとって、今回のブロック準優勝はこれまで最高の成績。夜行バスを走らせ、はるばる応援にかけつけた四十五名の父兄たちから、一段とたくましさを増した少年たちに温かい拍手が送られていました。

なお、選手たちはいずれも大谷小学校六年生。また、控えの選手として共に戦ったのは次の三選手です。阿部哲也（大谷四）・相楽　洋（大谷五）・大谷久則（大谷五）　※写真は、同少年団の父兄から提供いただきました。



いよいよ決勝戦。相手に不足なし



決勝戦まであとひとつ。選手たちの目も一段と輝く

試合本番。順調なすべり出し

監督を

春は世界中から

今年のように雪が少ないと、もう田や畑、果樹園には多くの草花が顔を見せています。春一番早く咲き、緑の葉の間から淡いコバルト色のハナビラを見せるのがオオイヌノフグリ。一面を覆いつくすかのようにピンクの花を咲かせるのがヒメオドリコソウ。そして、どこにでも見られるのがシロツメクサです。

どれも普通に見られる草花ですが、実はこれらは日本の植物ではないのです。明治時代にヨーロッパや西アジアから日本にやってきた「帰化植物」なのです。

さらに、もっと見なれているハコベやナズナ、スベリヒユなども、イネとともに同時代ころ日本に入ってきた植物のようで「旧帰化植物」と言われています。

こうみてくると、朝日町のような山村でも植物に関しては国際化が進み、ぴったりと日本に溶けこんでいるようです。

ふえるセイヨウタンポポ

雪が溶け暖かくなると、道端には黄色いタンポポが目につくようになりますが、よく見ると、最近、花の型の違うタンポポが増えているようです。セイヨウタンポポというヨーロッパ産のタンポポが、日本全国で広がっています。

何年か前、「朝日ナチュラリストクラブ」の子供達と、セイヨウタンポポの朝日町への進入度について調べたことがありました。

宮宿の元町、大町にはかなり増加しているようで、川通、能中などでは発見されませんでした。また、和合などでは道端にのみあり、

自然ほとばしる季節

今は春のさかり、屋外に出てみると、なんと気持ちのよいことか。そろそろ山菜採りや畑仕事へと出かけられると思います。そんな時、ちょっと足元の植物に注意を傾けてください。いろいろな植物がほんの少しの間だけ、その生命のほとばしる姿を見せてくれています。

（朝日ナチュラリストクラブ主宰
西沢信雄／西原）

カタクリ

コゴミ

みんなの教育

春の生命の

少し離れた山の近くには見つかりませんでした。立木や一ツ沢ではまったく見つかっていません。

セイヨウタンポポの進入ルートは、どうも道路が一番大きなカギになっているようです。なんだか、文化の伝わり方と似ているようです。

セイヨウタンポポは、花の下のガクの部分が、スカートをはいているように下に向いています。一度、家の回りを見回してください。もう進入しているかもしれません。

春のはかない命 スプリング・エフェメラル

こう書いてくると、なんだか町内すべてが外来植物で占められているようですが、そうでもありません。朝日町の基本的な植生は、町の樹にもなっているブナ林です。ここには、まだまだ日本古来の自然が残っています。

ブナ林や雑木林には、ブナやナラ、クリ、トチなどが葉を広げる前に、林床を色どる花々があります。これらを「春のはかない命」あるいはスプリング・エフェメラル（春の妖精達）と呼んでいます。カタクリ、キクザキイチゲ、ニリンソウ、エンゴグサ、ユキザサ、シラネアオイ、スミレなどの花々がそうです。

雪がとけ、林に太陽が当たり暖まると、これらの花々は一斉に芽を出し、葉を広げ、花を咲かせ、実をつけます。ブナやナラなどの高木が葉を広げると、もう太陽は届きません。このほんの短い間に、これらの植物は一生を終えてしまうのです。

「春のはかない命」、まさにこの言葉にぴったりの花々です。そして短い分だけ、その姿はよりあざやかで、より魅力的に感じられます。ブナ林の、春の美しさの一つがこの花々です。

「ブナの峰走り」

雪国の春が美しく感じられるもう一つの原因は、新緑にあります。とくに美しいのがブナの新緑です。昔から「ブナの峰走り」と言われるように、一気に新緑が山全体を走り、枯葉の山から緑の山に変えてしまうのです。

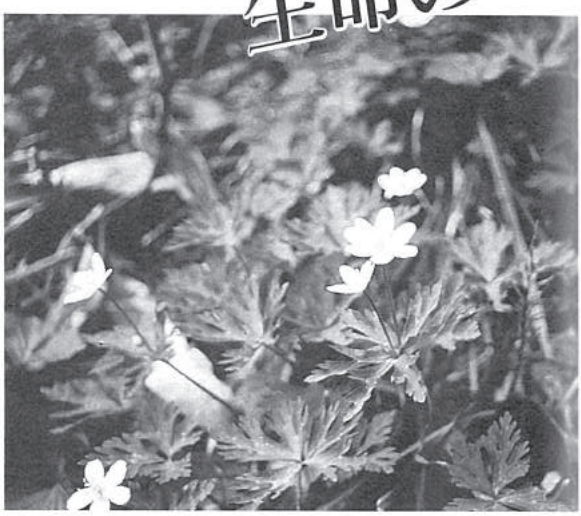
特にブナ林の新緑が美しい原因は、ブナの新芽（シュート）の生長力にあります。ブナのシュートは四月の芽吹き時の一週間で、一年の生長の六〇％が進むと言われています。一年の生長のほとんどがこの時期だと言ってもいいのです。

雪がとけ、太陽で幹が暖まると、ブナは芽をふくらませ、花を咲かせ、芽を広げ、枝を伸ばします。これがブナ林の新緑の美しさと力強さの原因です。

もちろん、山菜も負けてはいません。雪崩の跡が残る斜面や雪のとけた川岸では、ウドやコゴミ、アイコ、シドケ、ゼンマイが太陽を奪い合うように日一日と生長します。

ブナ林のこの生命力が、春を待った雪国の人々の心を強く打つのでしょう。

さあ、春は屋外に出てみませんか。山も谷も生命力にあふれています。国際化の進んだ植物あり、また郷土固有の植物あり。それらが色どる自然界の価値について、時には考えてみませんか。きっと、山菜採りも畑仕事も、楽しさは倍加するのではないでしょうか。



ニリンソウ

ひろば

話題の泉

誰がつけたか「子宝乃水」

世の中には、子供に恵まれずに悩んでいるご夫婦がおりますが、ここ数年前より、木川の山奥にある湧水が「子宝乃水」としてかくれた話題となっています。

その水を飲用し、今まで半分あきらめていたのに子供が授かった方、また、現在、懐妊中の方もいるとのこと。噂が噂となり、東海地方に住む女性の方は、親戚に宅配便で送ってくれるよう依頼があったという話や、また、その湧水が山奥のため、営林署の職員に依頼された話が現実に起きているとのことです。

今までその湧水には、細い竹を割ったものに「子宝乃水」と書かれた立札がありましたが、一般の人が利用するにはわかりにくいので、このほど営林署西五百川担当区の職員の皆さんが標識を立て、水を汲みやすいようにと整備しました。

近い将来、白倉の家族旅行村より車道が新設されれば、夏は森林浴、冬は歩くスキーと、家族そろって楽しめる所だそうです。

静かな話題となっている「子宝乃水」

ぼくのばあばあちゃん

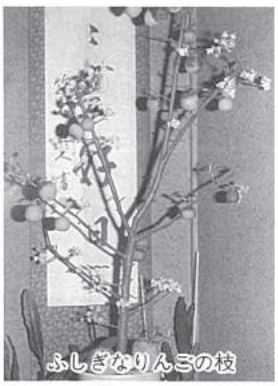
大暮山　鈴木　学くん（大暮山分校四年）
ばあばあちゃん（曾祖母）鈴木たまさん
妹　鈴木　泉ちゃん（一年生・右側）

ぼくのばあばあちゃんは82歳になります。今年は雪どけが早かったので、毎日畑にでていく元気なばあばあちゃんです。

雨の日は、家にいて近所のばあちゃんとお茶をのんでいます。ときどき昔話やいろんな話をしてくれます。

これはちょっとないしょだけど、そろばんの時は、おこずかいをくれます。ぼくも妹もこんなばあばあちゃんが大好きで、これからもながいきしてほしいと思います。

実がなっているりんごの枝に花が満開？


ふしぎなりんごの枝

大谷五の長岡四郎さん宅での珍事。昨年十一月、大谷一の志藤良男さん方のりんご園から、鑑賞用にと実の付いている枝をもらい受け、花びんに差して茶の間においていたところ、三月に入り暖かな陽気に誘われてか、実を付けたまま、りんごの花が咲きはじめたという次第。訪れたお客様もこのただならぬりんごの話題に花が咲き、用件を忘れて帰ってしまった？とか。

町民の

和合りんごにチャレンジ

ニューりんご家族です
小原の高嶋さんご一家

「和合りんごの魅力にひかれてきました」と語るのは、昨年十二月に和合小原に移住してきた高嶋幸四郎さん（31歳）。奥さんと二人の女の子の四人家族で、東根市羽入からの転入です。

現在、和合平の一町歩のりんご園で働く高嶋さん夫婦は、今までのりんご栽培の経験を生かしながら新しい土地での取りくみに胸ふくらませています。毎日の生活も快適で、「話しあえるお友達もできました」と奥さんの博久美さん（32歳）。

それにしても、幸四郎さんの口からあごにかけての髭（ひげ）は見事。りんごづくり仲間に明るい光を投げかけています。

（紹介…宿 佐藤平吉さん）

ゆいさんと麗ちゃんもりんごが大好き

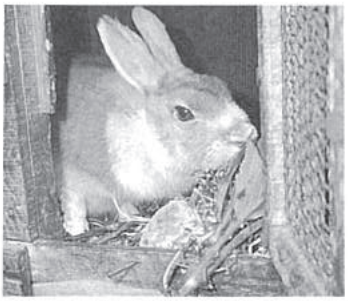
ピョンコちゃんはパンとセンベイが大好き

「ピョンコちゃん」は、太郎二の長岡源一さん宅で飼っているノウサギの名前です。八年前、親からはぐれた子ウサギをひろってきて育てているもの。ノウサギがこんなに長く生きているのは大変珍しいことです。

小さい頃は長岡さんの奥さん、さくさんが粉ミルクをスポイトで飲ませ、また寝る時も一緒にわが子のように育ててきたそうです。

小さいうちから飼われているものの、やはり野生のノウサギ。雪が降るころになると白くなり、春の今頃になると黒っぽくなるそうですが、齢のせい？か今年はまだ、まだら模様。

「ピョンコはパンとセンベイ、それにりんごの枝が大好き。これからも家族の一員として、大事に育てていきたい」とさくさんは話しています。



ワタシの名前はピョンコちゃんで〜す

隣のリンゴ家族

堀ひろき　(4)

「町民のひろば」からのお願い

「この広場」は町民みんなで作り上げるページです。小さな話題、意見、情報などをお気軽にお寄せ下さい。イラスト、文芸、書画などの作品も歓迎します。毎月末日まで、役場の企画広報係へ。

青年の発想を町政に！

若者の定住対策を質す―●青年議会

登壇して「一般質問」をする青年議員

女性議員もするどく質問

三月二十六日、町連合青年団（加藤正彦団長）主催の伝統ある「青年議会」が町の議会議事堂で開かれました。この事業は同団の年間活動の総まとめとして行われているもので、県内の青年団からも注目されている活動の一つです。

当日は女子青年四人を含む二十人の若き議員たちが議席に連座し、町の現職議員らが傍聴する中、家族旅行村の運営やふるさと創生一億円の活用など八項目にわたる一般質問や提言を行い、小林町長はじめ町の執行部の考えを質しました。

議事の最後は「青議第一号議案」を上提。昨今の団員の減少など活動の停滞を打破するため、団員倍増運動を主とした団活性化案を満場一致で決議しました。

なお、この青年議会の内容について、同団発行の機関紙「朝日の若者」に掲載し全戸配布する予定とのこと。ぜひ、ご覧ください。

「花いっぱい運動」でイメージアップ作戦

推進委員会を発足

花は人々の心をなごませてくれる自然の美術品。十月に家族旅行村の開村をひかえ、町のイメージアップをはかるとともに花のある生活環境づくりを進めようと三月二十九日、初の「花いっぱい運動」推進委員会が役場で開かれました。

同運動はこれまで、宮宿商店街を中心とするフラワーポットの設置や松程地区でのフラワーロードの取り組みなど、団体や地区で独自の活動を展開中。これらを全町にわたって広げようと提案されたもの。

長寿クラブや婦人会などの代表者が出席した初会合では、各団体での活動状況や意見を交換。同委員会では今後、具体的な運動の展開方法について協議していくことにしています。

旅行村へすいせんロード（松程）

ベンチの取り付け作業をするみなさん

神秘の湖沼の島めぐり

散策道を整備　大沼浮島

国の名勝地「大沼の浮島」に、このほど待望の散策道が整備され、訪れた行楽客から喜ばれています。

この散策道は地元、大沼区の皆さんが4日間ほどの労力作業により、湖沼を一周するおよそ800メートルを、木製の橋や砂利を敷いて結んだもの。この散策道ができたことにより、浮島の浮遊する神秘な湖沼、「大沼の浮島」のまた新たな姿を楽しめるようになりました。ぜひお出かけください。

春祭りのスタート

にぎわう宮宿ひな市

恒例の宮宿ひな市が３月23日、福昌寺わきの路上で開かれました。このひな市は、宮宿商店街の活性化を図るために、20年ほど前から月遅れのひな祭りに合わせて開かれているもの。始まった頃はおひなさまが飾られていましたが、最近ではその姿も見られなくなり、代わって春を告げる鉢植えの花物や、オモチャ、雑貨など35ほどの露店が軒を連ね、春休みに入った子供達や昼休みで繰り出した勤め人の客でにぎわっていました。

（広報委員　清野義信）

楽しさいっぱいの露店がズラリ

今月の顔

伝統ある朝日町消防団
六代目の「火消し頭」

本町　渡辺　金二さん（53歳）

「事故や災害のない町」づくりになくてはならない自治消防団。「最近、特に山間部での若者の減少や町外への通勤者が多いため、団員の確保が大きな悩み」と語るのは、四月一日付で六代目の町消防団長に就任した渡辺さん。昭和三十一年に入団以来、途中の「休息日」を除き三十一年間、人生の半分以上を消防人として生きてきた。まさに消防の「生き字引」の存在。

「こうして務められるのも、家族や地域の方々の励ましがあったから―」。この言葉の陰には、日夜を問わない火災時での、幾多の試練を経験し、そして何よりも奥さん（宏子さん）の深い理解が大きな支えに。

情熱家で「消防」には厳しい渡辺さんも、日頃は「玉屋の金ちゃん」（菓子製造業）の愛称で慕われ信望も厚い。今、団員四百五十四名の頂点に立ち、三十日に行われる春期演習での頼もしい陣頭指揮が注目される。

（広報委員　今井仁志）

中国研修生

あの寧波（ねいは）さんがお嫁さんを伴い来訪

青年団仲間と再会を喜ぶ

青年団員の案内で旅行村を見学

四年前、町連合青年団の招きで当町に一年間滞在した中国青年二名のうちの一人、吉林省出身の寧波さんが三月十九日、若い奥さんを伴い再来町。小林町長らの歓迎を受けた二人は、滞在期間中、当時なかった家族旅行村などを見て回り、青年団仲間や宿舎をお世話いただいていた本町の鈴木実さんらと再会を喜び合いました。

今回の来町は「草の根の国際交流」に取り組む、中沢の五十嵐義行さんらを中心とする当時の青年団仲間の計らいで実現したもの。

寧さんは昭和六十年五月に帰国後、新婚生活もつかの間、彼の志学への熱心さが買われ、翌年一月、単身で岡山大学農学研究科に公費留学。奥さんの遊国茹（しょうこくにょ）さんも昨年、岡山大学に私費留学し、共に中国の若き担い手として修学に励んでいます。

四日間の楽しい日々を過ごした寧さん夫妻は「皆さんのご厚意に感謝します。子々孫々、微力ながら中国と朝日町の友好の橋渡しに尽くしたい。今度は三人で旅行村に泊まりに来ます」と「第二のふるさと」を後にしました。

小さいうちから慣れしたしむことが大切

5か年計画

スポーツ振興基金の造成運動に取り組む

63年度分は800万円を積立て

スポーツ活動は今や、若者からお年寄りにいたるまで、積極的な健康づくりと仲間づくりに欠かせない日常生活の一部。また、子供達の心身の成長と鍛練には特に重要な活動です。

さらに、三年後に「べにばな国体」が開かれることもあって、ますます盛んになるスポーツ熱。

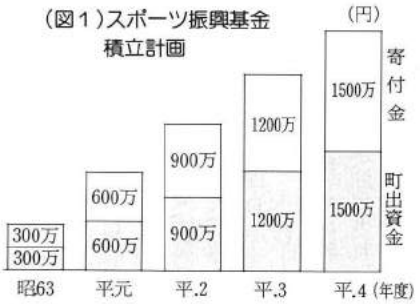
これらスポーツ活動の普及と、スポーツを通した子供達の育成を援助しようと昨年から「スポーツ振興基金」の設立運動が盛り上がり、体育協会をはじめとする各種団体間で具体策を検討。榊寿太体育協会長を代表とする基金造成促進委員会が組織され、五か年計画で、目標額三千万円の基金造成計画がスタートしました。

具体的には、基金から生じる利子をスポーツ活動の普及事業に活用しようというもので、資金の調達については、半分を町民からの篤志寄付金、後の半分を町一般会計からの出資金で積み立てていくもの。（図1）

第一年次の昭和六十三年度分については、今年一月から三月まで、体育協会の会員らが町内の各家庭を回り、町民から一口五千円の寄付（五回分割。一括寄付も可）の協力をお願いしました。これにより、三月末での寄付金総額は四百九十一万二千円となり、町からの出資金三百八万八千円を合わせ、六十三年度分として八百万円を基金に積み立てることになりました。

なお、この基金の活用については、平成二年度から具体的な事業に取り組んでいく計画です。

（図1）スポーツ振興基金積立計画



一瞬のスキをついて竹刀がとぶ

第一回

"朝日町剣道"の向上めざし 剣道選手権大会開く

気合高らかに熱戦を展開

今や剣道は、大谷、送橋、宮宿の各地区を中心にスポーツ少年団の結成とともに一般愛好者も増え、町の伝統スポーツとなりつつあります。三月二十一日、町内の小学四年生以上を対象に愛好者の交流と「朝日町剣道」のレベルアップをはかろうと、第一回の剣道選手権大会が北部体育館で開かれました。

これは朝日町剣友会（白田進会長）が主催したもので、参加した約百人の剣士たちは、気合も高らかに仲間との熱戦に汗を流しました。各部門での成績は次のとおりです。

■**小学四年**①川村貢（大谷六）②五十嵐康徳（舟渡）③鈴木早苗（大谷五）・遠藤純史（栗木沢）■**小学五年**①志藤修（大谷三）②白田貞一（大谷四）③渡辺繁幸（大谷三）・庄田崇（真中）■**小学六年**①小野卓実（大谷六）②白田征治（大谷一）③相楽洋（大谷五）・白田智哉（大谷五）■**中学生以上一般**①志藤浩之（大谷五・左沢高校三年）②遠藤勇二（栗木沢・同校三年）③白田元（大谷一・教員）

思いっきり躍動　21世紀の主役たち

べにばな国体

「べにばな国体」での活躍期待

朝日中

10人が優秀指定選手に

三年後に本県で開かれる第四十七回国民体育大会「べにばな国体」に向け、その強化選手として、同大会県競技力向上対策本部（本部長・県教育長）が、このほど中学生優秀指定選手を発表。三十九種目、八百十三人の指定選手の中に、朝日中学校の次の十人の生徒が選ばれました。

今後、各選手らは国体選手の候補者として、県の技術講習や県外遠征に参加して、さらに技を磨きます。

優秀指定選手

【スキー（アルペン）】
堀　由紀子（1年・舟　渡）
【バスケットボール】
海野　敦史（2年・西船渡）
菅井　一（2年・宿　）
海野　英明（2年・本　町）
熊谷　忍（1年・小　原）
【ソフトボール】
岡崎　千春（2年・本　町）
清野　令子（2年・四ノ沢）
【剣道】
渡辺　健一（2年・大谷三）
清野志津佳（2年・古　槙）
池田　梨絵（2年・大谷五）

榊さんに県スポーツ少年団功労者表彰

スポーツ少年団の育成や活動の充実に功績のあった個人や少年団の優良団体を対象とした、県スポーツ少年団功労者表彰式で、このほど大谷二の榊寿太さん（64歳）が表彰されました。

町の体育協会長でもある榊さんは、地元、大谷地区の伝統ある剣道スポーツ少年団の育成と指導にあたり、さらに町スポーツ少年団本部長として、青少年のスポーツ環境の整備・充実に努めているものです。

表彰を受ける榊さん

中部は水本Aチーム、西部は立木・白倉・曲渕チームが優勝

子ども会の春休み卓球大会

春休みを利用して、スポーツを通した子ども会のまとまりと健全育成をめざそうと三月二十一日、西部、北部、それぞれの地区子供会育成協議会が主催する卓球大会が開かれました。

各会場とも、手にラケットをもった子供達でいっぱい。父兄らもかたわらで声援する中、これまでの練習の成果とチームワークを競いました。各大会の成績は次のとおりです。

●**中部大会**（町民体育館）
①水本A②助ノ巻・雪谷A③上郷A③新宿A

●**西部大会**（健康増進センター）
①立木・白倉・曲淵②大舟木・今平③太郎A

広い体育館もおおぜいの子供たちでいっぱい

平成元年3月1日～31日

＊おしあわせに（婚姻届）

大町　栄町
菅井　信彦♥鈴木　智子
舟渡　米沢
佐竹　新一♥千田みな子
水本　山形
岡崎　浩一♥梅津しげ子

＊すこやかに（出生届）

区	名	出生児氏名	父親名
松原	長岡	清弥香（さやか）	利光
長沼	海野	賢太（けんた）	秀夫
西原	高橋	美晴（みはる）	三男
本町	齊藤	由真（ゆま）	利彦
沼向	菅井	元基（げんき）	恒好
太郎二	長岡	仁美（ひとみ）	昭男
沼向	菅井	杏子（きょうこ）	勝英

＊やすらかに（死亡届）

区	名	死亡者氏名	世帯主
古槇	清野高之助		剛
下芦沢	岡崎トメノ		清
大谷三	大谷キミヱ		秀雄
大隅	大竹	よし	孝男
太郎三	大井きくよ		操
沼向	菅井つねよ		安藏
大沼	小林	ぎん	勝男
古槇	渡邉	るつ良	春

＊人口と世帯数

（平成元年3月31日現在）

▽人口　一〇、八七二人（△六二）
　男　五、四〇〇人（△二四）
　女　五、四七二人（△三八）
▽世帯　二、五九六世帯（△一〇）

ほやほや新婚さん

常盤／海野隆博さん　栄子さん

出逢いは「ひと昔前にもなるかなー」。セーラー服姿の彼女を、車で自宅まで送ったのがきっかけで、五年越しの愛が実りました。

栄子さんは上郷出身。ダムをはさんで行ったり来たり。ダム公園が格好のデートの場所だった。お子さんは「二人くらい。最初は男の子が欲しい。名前？平成元年にあやかろうかな」と明るい栄子さん。もう春の小川も暖まりそうです。

（広報委員　白田光郎）

善意のかご

保育園にランチマット

●大谷にある朝日ビニール工業株式会社（遠藤俊晴社長）から、今年も保育園児の給食用ランチマット、六百枚をいただきました。

社会福祉協議会へ

●西町の若月清蔵さん（前朝日町収入役）から、恵まれない人達のために役立ててくださいと、社会福祉協議会に現金、三十万円をいただきました。

●朝日町連合婦人会（長岡京子会長）から、オムツなどに用いるサラシ、三反をいただきました。

せせらぎ

▼「柔弱は剛強に勝つ」。先日、ある工場を見学した折「分厚い鉄板は水で切断するんですよ」との説明を聞き、この言葉を思い出しながら、科学技術が進んだ現代にも通じるのかと驚かされた。▼今「ふるさと創生」資金一億円の使い道が大きな話題。「自ら考え、自ら行う地域づくり事業」であるから、主役は当然、地域に住む私達。「一人一提案一行動」で参画したいもの。▼農産物の輸入自由化の外圧が強まる中で、わが町の農業も異常気象と価格の低迷など不安材料がいっぱい。産業界で生き残るには今や「隙間をねらったビジネス」だと言われる。▼ならば、輸入自由化を逆手にとって、「芸術品」とも呼ばれる高品質の町産りんごを、地域ぐるみで積極的に海外に市場を求める調査研究をしてみてはどうだろう。農業の分野もハード（剛強）からソフト（柔弱）の時代に入った。（拓雲）

広報あさひ　389号　発行/山形県朝日町　編集/朝日町広報委員会　平成元年4月15日発行　印刷/山形市　豊田太印刷所